年間授業計画 新様式

千早 高等学校 令和7年度

教科 理科 科目 化学基礎

 教 科: 理科
 科 目: 化学基礎
 単位数: 3 単位

対象学年組:第 2 学年 選択者

教科担当者:

使用教科書: (啓林館「i版 化学基礎」(化基707)

教科 理科 の目標:

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

科目 化学基礎 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】			
	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を 養う。また、実験の事象に関する表現、実験結 果より考察する思考力を養う。				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	・混合物と純物質、混合物の分離・ 精製法を理解させる。 ・元素と化合物・単体、物質の構成 元素とその検出方法について理解さ せる。	第1章 化学と物質 第1節 物質の構成	【知識・技能】 混合物と純物質の違い,混合物の分離と精製について理解することができる。元素と化合物・単体、物質の構成元素とその検出方法について理解することができる。 【思考・判断・る表現】 混合物と純物質の違いと,混合物の分離について考え、判断し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法について調べようとする。物質の分類や分離・精製法について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	0	0	0	
1 学期	いて理解させる。	第2章 物質の構成粒子 第6節 原子の構造 第7節 同位体 第8節 電子配置 第9節 イオンの生成 第10節 イオンの生成とエネルギー 第11節 元素の周期表	【知識・技能】 物質は原子、分子、イオンが集まってできていることと、原子の構造を理解することができる。イオンの性質について理解することができる。周期律と周期表、元素の性質について理解するととができる。【思考・判断・表現】 物質は厚子、分子、イオンが集まってできていることと、原子の構造、イオンの性質、判律と周期表、元素の性質を、則律と周期表、元素の性質を3。【主体的に学習に取り組む態度】物質の構成粒子について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	0	0	0	45
	定期考査			0	0		
	・イオン結合とイオン結合でできた 物質について理解させる。 ・共有結合と分子,共有結合結晶と 電気陰性度について理解させる。 ・金属結合と金属の性質について理 解させる。 ・化学結合による物質の分類と性質 を関連付けて理解させる。	第12節 イオン結合 第13節 イオン結晶とその性質 第14節 共有結合と分子 第15節 共有結合の表し方 第16節 配位結合 第17節 電気陰性度と極性 第18節 分子からなる物質と分子間 に働く力	【知識・技能】 イオン結合でできた物質について理解することができた。共有結合と分子、共有結合と治ができ性度に知られて理解することができた性度にはないできたができる。金属さる。金属が自己との物質の分類を性質を関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 イオン結合と分を関連付けて理解するによるができる。・判断・表現】 イオン結合と分を異関連付けて考え、判断し、表別類と性質できる。属結合とと強属ではよる。の質別と性質できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学結合について調べようとする。化学結合について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	0	0	0	
	定期考査			0	0		

	・原子量・分子量・式量について理解させる。 ・物質をつくる粒子の量や濃度について物質量を用いて表す方法を理解させる。 ・化学変化における量的な関係を物質量により理解させる。	第1章 物質量と化学反応式 第23節 原子量 第24節 分子量・式量 第25節 物質量と粒子の数	【知識・技能】原子量・分子量・式量について理解することができる。物質をつくる粒子の量や濃度について物質量を用いて表す方法を理解することができる。化学変化における量的な関係を物質量とり理解することができる。【思考・判断・表現】、物質をつくる粒子の量や濃度、化学変化における量的な関係を物質量により考え、判断し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】物質量と化学反応式について調べようとする。化学結合について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	0	0	0	
	定期考査			0	0		
2 学期	・酸と塩基の性質と電離度について 理解させる。 ・水分子がわずかに電離して水素イ オンと水酸化物イオンを生じている ことや、鬼用について理解させる。 ・酸と塩基の中和の量的関係や中和 による塩の生成とその性質を理解さ せる。	第33節 酸・塩基の価数と強弱 第34節 水の電離とpH 第35節 水溶液の希釈とpH測定 第36節 中和と塩 第37節 塩の性質	【知識・技能】酸と塩基の性質と電離度について理解することができる。水分子がわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを生じとがでるる。酸と塩基の中和の量的関係や中和による塩の生質を理解することがわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを発しまる。の生態と塩基の性質を理解度、水分子がわずかに電離して水素イオンと酸化物イオンを量的でいる。と、pH、砂や中和による塩の生成とその性質につきる。「主体的に学習に取りま想と塩をの性質にできる。」(主体的に学習に関べて、考え、判断し、表現することを、のは、当時である。」(主体的に学習に関べて、考え、判断し、表現することを対して、考え、判断し、表現するととができる。	0	0	0	45
	定期考査			0	0		
3 学期	・酸化と還元の定義と酸化数について理解させる。 ・酸化剤と還元剤とその反応について理解させる。 ・金属のイオン化傾向について理解させる。 ・金とる。 ・金とる。 ・多く利用されていることを理解させる。	第41節 酸化と還元の定義 第42節 酸化数 第43節 酸化剤と還元剤 酸化還元反応の反応式 第45節 酸化還元反応の量的関係 第46節 イオン化傾向	【知識・技能】 酸化と還元の定義と酸化数について理解することができる。酸化剤と還元剤とその反応について理解することができる。金属のイオン化傾向について理解することができる。できる。されていることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 酸化と還元の定義と酸化数、酸化剤と還元剤とその反応、金属のイオン化傾向、えれていることを考え、判断し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化還元反応について調べようとする。酸化還元反応について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	0	0	0	27
				<u> </u>			合計
							117